別紙

○洪水体験を綴った”文集「ほっぺ」”とは

今から５２年前、昭和３０年６月に起きた洪水について、旧中仙町立長野小学校２年生３３名が、見たまま、感じたままに書いた作文を、担任の高橋先生（現佐々木）がまとめた文集で、河川改修やダムの整備が行きとどかない頃の生活、水害にたびたび襲われる怖さなどが伝わってきます。

国土交通省東北地方整備局玉川ダム管理所が、平成１９年３月に復刻版を作成しました。

高橋先生（現佐々木）は、自然や人間とのつながりに気づき、生きることに大切なものを、時代が変わっても変わらぬものを、子どもたちとともに求めていくことが必要だと、復刻版のあとがきによせています。





